

令和4年度 学校経営方針

I. はじめに

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業社会生活に取り入れられた Society5.0 時代（1.狩猟、2.農耕、3.工業、4.情報、5.仮想空間と現実空間が高度に融合された新たな社会）の到来しつつあり、社会の在り方そのものが現在とは「非連続」といえるほど劇的に変わってきている。

また、学習指導要領の改訂に関する平成28年度（2016）年の中央審議会答申においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたことが指摘されており、令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなった。

このような急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き持続可能な社会の作り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

一方教育には、どんなに社会が変化しようとも、「時代を超えて変わらない価値のあるもの」を育むことが求められる。豊かな人間性、正義感や公正さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心など、こうしたものを子どもたちに培うことは、いつの時代、どこの国の教育においても大切にされなければならないことである。

そして、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」に柔軟に対応していくことも教育に課せられた重要な課題である。少子高齢化、グローバル化、情報化等が進展する中、働き方等に関わる改革が進められている。「生徒たちが本当に必要としていること」を見極め、取り組む改革との乖離がないよう、ことの本質を吟味し、これまで学校現場のなかで不易とされてきたことにも踏み込む必要があると考えている。

「時代を超えて価値のあるもの」と「時代の変化とともに変えてよいもの」を十分に見極めつつ、子どもたちの教育を進めていく必要がある。「よい学校」とは、「信頼される学校」であり、家庭の学校に対する信頼の基盤は、我が子が毎日の楽しみながら登校し、共に学び、学校生活に満足することである。教職員は、真剣な教育実践と誠実な生活態度がその基盤にある。そのために、日々の実践を惜しまず、すべての教育活動を「正義を愛し、礼儀正しく、楽しさと潤いに満ちた活力ある（魅力ある）学校」の達成に向け、学校経営を推進していく。

II 基本理念

1. 経営理念(学校づくりの基本的な考え方)

学校経営は、学校の教育目標（生徒・地域の実態に即したもの）を達成するための、教育活動を通じて行う意図的・計画的な活動である。達成するためには、全教職員の「力」が必要不可欠である。「教師が変われば子どもも変わる」教職員が個性を發揮しつつ、協働する姿勢で「チーム学校」意識し、また、学校（全教職員）・家庭・地域が「三者一体」となって教育活動にあたりたい。

2. 教育理念(教育に対しての基本的な考え方)

学校教育における主役は常に『子ども』である。したがって、子どもを中心に据えた教育活動が行われ、子どもたちの健やかな成長が実感できる教育活動を推進していきたい。